

鹿児島本線を八代から南へくだると、右手の海上、碧い波の上に、真白い小島が浮んでいるのがみえる。これがセメントの原料石灰石を採掘場として、全島石灰岩におぼれた大築島である。

戸数僅か49戸、ここにある八代小学校と八代三中の大築島分校がこの写真である。生徒達は小学生が43名、中学生が5名、先生は3名。遊べる広場もない小さな島だが子供達は潮風で真黒に肌を焼きながら、すくすくと伸びている。

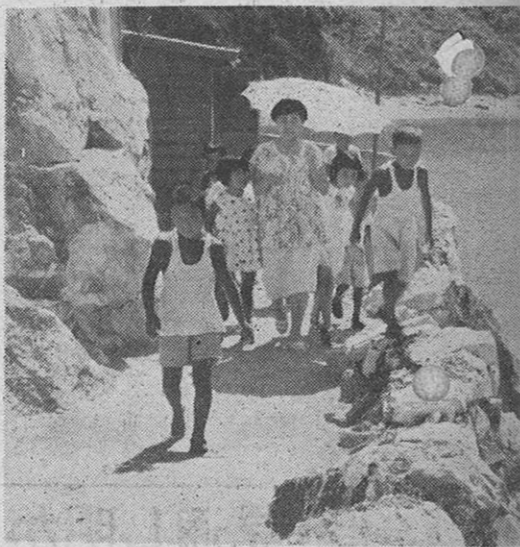


船は本土の匂いを運んでくる。床屋さんもバリカンを持って船でやってくる。子供達は船が着くとワツと岸壁に集つていつまでも眺めている。

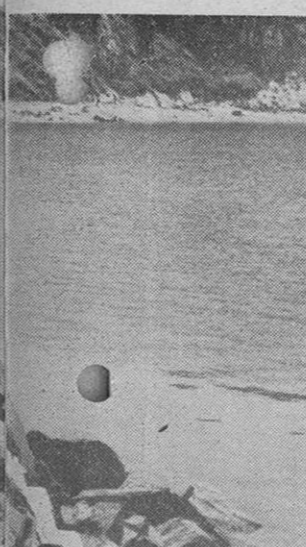
たん葉員す作のどう猫
よにへるり他°なの
「このだの本鉄ヒ
と成ので。教製タイ
守積島は「材ののイ
先はにな教は設運程
生本も材す備動の
は校Pかのべに用運
力のT「不ては貝動
強生Aと足先及が場
く徒のがが生ば一に
話にあP学となつは
し負るT業生いるこ
てけ〜Aに徒がるこ
くまのの影の、きの
れせ言会響手そりよ



夕水は天からもらい水夕屋根の雨水を水槽に集めて使用している。分校でも簡易濾過器で濾過して飲まなければならない。「放射能の影響が心配です」とは或る父親の言葉である。……………★↑



人数が少ないので先生と生徒達は大の仲良しだ。石灰石がキラキラ光る海沿いの道を、何を語りながら来るのだろう。……………↓



島の学校

分校は大築島の中腹にある。遠く天草が海の彼方にかすみ、夏雲が輝いている。……………★→



生徒達は放課後にもつばら釣と水泳だ。石灰岩の山は海岸まで迫り、遊ぶ場所とない。「夏はいいが、冬が子供達は可哀想ですよ」と、こゝで10年間も教壇に立っている守先生は云っている。……………★↓

